

国際競争力強化に向けた黒毛和種短期肥育技術の開発

〔分野〕	畜産・酪農
〔分類〕	包括提案型
〔研究代表機関〕	（研）農研機構中央農業研究センター（先導（短期肥育）コンソーシアム）
〔共同研究機関〕	（研）農研機構西日本農業研究センター・九州沖縄農業研究センター、畜産研究部門 （独）家畜改良センター、（地独）北海道立総合研究機構、岩手県農業研究センター、 宮城県畜産試験場、秋田県畜産試験場、富山県農林水産総合技術センター、 群馬県畜産試験場、島根県畜産技術センター、大分県農林水産研究指導センター、 長崎県農林技術開発センター、（国）北海道大学、（国）東北大学、（国）京都大学、 （国）弘前大学、（学）日本獣医生命科学大学

1 研究の背景・課題

輸入牛肉による国産牛肉の価格低下が予測されるなか、生産コスト低減による持続的黒毛和種肥育技術の開発が必要である。そこで、枝肉重量および肉質を維持しながら肥育期間を短縮するための飼養技術開発が必要である。

2 研究の目標

枝肉形質を維持しながら肥育期間を3か月以上短縮し、26か月齢程度で出荷するための飼養管理プログラムを提案する。また、提案するプログラムがどのような遺伝的系統に適しているのかを明らかにする。これにより給与飼料費の節減が可能となり、かつ、肥育牛舎の利用効率を改善することなどから、生産コスト削減が期待出来る。本成果を全国で使用可能な生産者向けの飼養管理マニュアルとしてとりまとめて普及に努め、短期肥育することで枝肉性状を維持しながら10%以上の所得向上効果を実証し、TPP発動後においても黒毛和牛牛肉の持続的生産が可能となることを目標とする。

3 研究計画の概要

1. 肥育期間短縮のための育成・肥育管理技術開発

肥育期間を大幅に短縮することを目的に給与粗蛋白質量や粗飼料量を調整し全国で利用可能な肥育管理プログラムを開発する。同時に開発したプログラムに適した黒毛和種の系統を探索する。

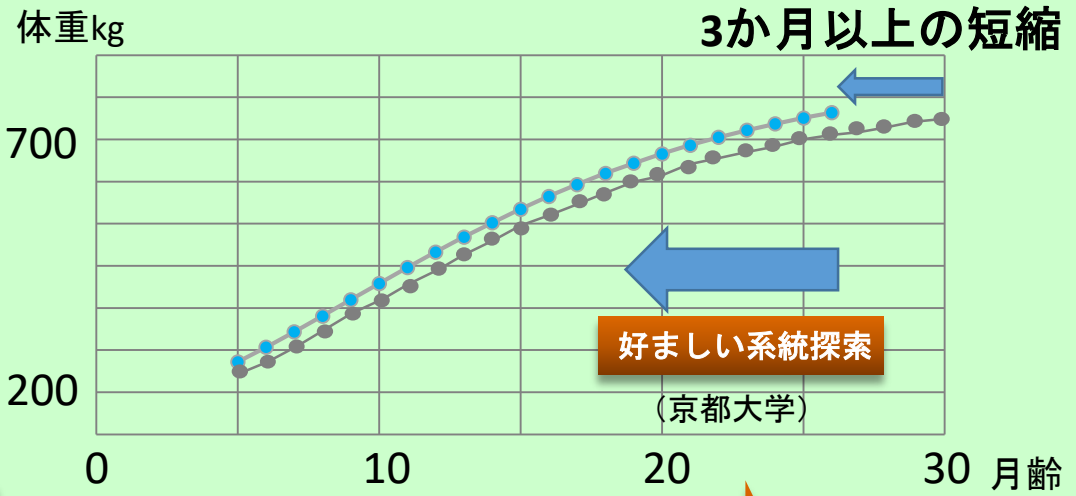
2. 育成・肥育技術の先端技術開発と経営戦略

肥育期間短縮をスムーズに行うための哺育・育成方法、肥育期間中のビタミンの効果について検討する。また、短期肥育と慣行肥育における肉質の違いについて詳細に検討し、特に「しまり」についてのデータを収集する。更に、母牛の栄養水準が産子の生理機能に及ぼす影響を検証する。これらの研究に加えマーケティングや経営評価を行い、普及可能な短期肥育技術を提示する。

国際競争力強化に向けた黒毛和種短期肥育技術の開発

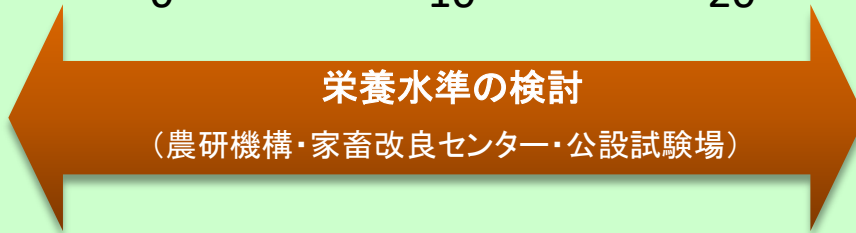
品質の高さを維持して肥育期間を短縮するための飼養管理プログラムを開発する。

成長曲線を前倒し



研究課題 I

I



研究課題 II

II

